

映像作品 テーマ：探偵について

伊吹 直人

(近藤晴夫ゼミ)

始めに

私は番組制作のゼミに入ってから、まともな制作活動をした事が無かった。共同制作の時は、撮影や編集は慣れた人に任せ、私は簡単な雑用ばかりやっていた。素人同然の自分が制作に参加すれば皆の足を引っ張ると思ったからである。

しかし卒業制作は基本的に一人で作り上げる為、誰かの足を引っ張る事も無く、思い切り創作に力を入れる事が出来る。そう当初は思ったが、同時に撮影経験が殆ど無い自分一人で卒業作品の創作に挑む行為は無謀なことに思えた。しかし大学生活最後にして自分だけの番組を作れるという願望の方が強く、番組制作の踏ん切りが何とかついた。

テーマとして「探偵」を選んだ理由

番組の台本を作るにあたって、テーマは何でも好きな物で良いと知った時、私は真っ先に趣味の一つである「ミステリー」をテーマにしようと決めた。

ミステリーには登場人物にトリック、凶器、舞台、話の結末に至るまで多種多様な魅力が備わっている。その魅力を番組にして解説したいと思い、私は台本を書き始めた。しかし台本が書きあがるにつれ、内容に一貫性が失われていく上、量が膨大になってしまう事に気づいてしまった。11月後半から撮影が開始され、1月の作品提出日にはとても間に合わない。そこで私は台本の改善及び削減に取り掛かった。

「ミステリー」というテーマを取り上げては量が多すぎてしまうので、「ミステリー」の中から「探偵」をテーマとして抽出する事にした。「ミステリー」の魅力的要素には「トリック」や「舞台」等沢山ある中で、私が「探偵」をテーマとして選んだ理由は、やはりキャラクターとしての面白さ

があったからである。

推理小説を読んだり、サスペンスドラマを観ている人は、「探偵」を「なんでも解決してくれる完全無欠な存在」だと思える人が多いだろう。実際私も最近までそう思っていた。しかし物語や人物設定をよく見れば「探偵」も普通の人間で弱点や欠点もある事に気が付く。その「優秀だけど、実はどこか抜けている」という探偵という存在が面白いと思い、私は探偵をテーマにして台本を書くことにした。



図1 名探偵のホームズも実は変人だった

出演者によるこだわり

進行役を始め、イメージVTRに出演している人たちは顔も声も、出なければ、役名すら出ていない。これは手抜きのように見えるが、全て演出として狙ったことである。

まず顔をお面やマスクで隠すのには三つの理由がある。一つ目の理由は怪しい雰囲気を演出する為である。サスペンスドラマ等では、犯行中の犯人の顔は影や遮蔽物で隠れて見えない演出がされる事が多いので、その演出に習って出演者全員にお面やマスクを被せ、怪しい雰囲気を演出させた。

進行役が黒ずくめでガスマスクを被っていたのも同じ理由である。



図2 顔を隠す事で怪しい感じになった

二つ目の理由は顔出しNGの対策である。出演に協力してくれる人の中には照れて顔を出したくないと言う人がいた。その人だけ顔を隠し、他の人だけ顔出しをすると、不自然になってしまう。ならばいっその事出演者全員の顔を隠せば自然な絵面になると思い、出演者全員の顔を隠すことにした。

三つ目の理由は、出演者と役の不自然さを隠す為である。番組に出演してくれる人があまり多く集まらなかった為、場合によっては一人の人間が犯人役をし、別の場面では違う役をすると言う事が良くあった。映画やドラマでは一人の役者が別々の番組で全く違う役を演じる事は良くあるが、一つの番組で一人の役者が複数の役をこなす事は不自然を通り越して滑稽に見えてしまう。その為に出演者の顔を隠したのである。

セリフ

セリフは全て編集作業で後付けにする事は、台本が出来上がった当初から決めていた。

番組の殆どがナレーションに沿って進行する上、お面を付けたまま喋れば声が籠ってしまうという問題点を改善する為である。

しかもセリフ無しの撮影は、出演者がセリフを覚える負担を負わない、非撮影関係者が居る撮影現場でも撮影ができる、人工合成音声ソフトによる雰囲気演出といった様々なメリットがあった。

小道具

出演者が着けているお面を始めとした小道具の大半は通販等で買いそろえたが、血糊だけは自作である。これは洗濯糊に赤と緑の食用着色料を混ぜて作った。丁度良い色に調合するのに少々苦労したが、なんとかリアルな色に作り上げる事が出来た。

探偵紹介と作品紹介VTR

各々のドラマ、アニメ、マンガ、映画作品から探偵のカッコいいシーンや欠点や個性が見えるシーンを抜粋、抽出した。このVTRはチャプターごとの小休憩的なコーナーの上、探偵は完全無欠ではないという事を示す重要なシーンである。

探偵がカッコ良く調査や推理をするシーンは簡単に見つかったが、欠点や個性が映されるシーンを抜粋するのは少し苦労した。少ないシーンを探し出す事も苦労したが、ヒーローの粗探しをするような作業は、まるでスターのスキャンダルを探すパパラッチの様に思え、少し後ろめたさの様なものを感じた。

編集

編集作業は自宅PCに内蔵されている編集ソフト「Windows Liveムービーメーカー」を使った。このソフトを使った理由は単純に使い慣れているからである。

私は数年前まで簡単な動画の制作をした事があったので、慣れているソフトを使った方が編集作業がスムーズに進むと思い、「windows Liveムービーメーカー」を使った。



図3 Windows Liveムービーメーカーの編集画面

セリフ及びナレーションは「ゆっくり Movie Maker」というソフトを使った。

これは動画サイトに溢れている「ゆっくり解説動画」で使われている人工合成音声を打ち込むことができるソフトである。

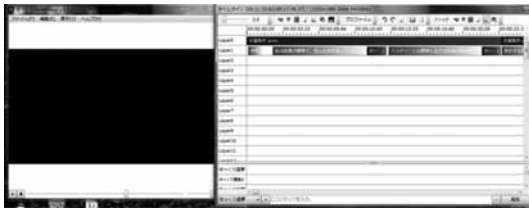


図4 ゆっくり Movie Maker の編集画面

編集作業の流れは、「windows Liveムービーメーカー」でカット、BGM等の添付をし、「ゆっくり Movie Maker」でナレーション等のセリフを打ち込むというものである。

カット編集は順調だったが、セリフの打ち込みはそうは行かなかった。編集した映像と当初考えていたセリフの長さが合わないというシーンが何ヶ所か出てしまった。例えばナレーションしている途中で次のシーンに変わったり、逆にナレーションが終わったのにも関わらず尺が余ってしまうというものである。

その問題点を改善する為、セリフの表現や言い回しを変えたり、読み上げスピードに変化をつけたりした。

エンコード

紆余曲折の末、編集作業が終わり、いざ完成動画を見てみようと思い、再生した所、中々読み込

まればカクカクした動画になり、とても見られたものではなかった。そこで動画の容量を確認した所、なんと163GBというとんでもない容量になっていた。この大容量では再生はもちろん、提出すらできないと思い、エンコードソフトを使い、動画容量を大幅に圧縮する方法を見つけた。そのエンコードに使用したソフトは「つんでれんこ」というソフトである。簡単な設定をするだけで163GBの大容量データを僅か97MBにまで圧縮してくれる優れ物である。

データを圧縮した結果、動画はスムーズに再生され、提出用メディアに書き込むことも出来た。

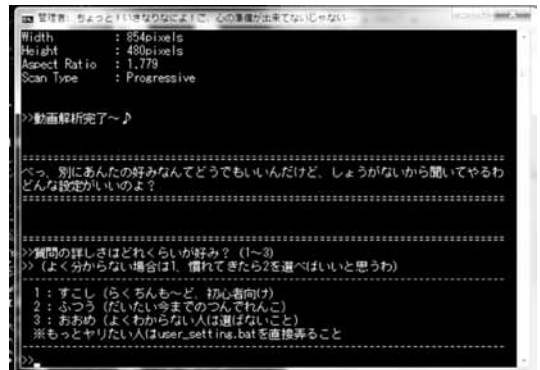


図5：つんでれんこの処理画面

簡単で使い勝手が良かった

反省点

まず撮影における管理の甘さが挙げられる。撮影したと思っていたシーンを撮り忘れていたり、撮影時に録画ボタンを押し忘れていたり、または間違っていて消去したりと、編集作業に移ってからシーン不足に気が付くことが少なかった。これは管理の甘さと撮影経験の少なさがもたらしたミスである。

編集作業における反省点は、編集ソフトを統一するべきだった事である。

慣れているという理由でカット編集とアフレコを別々のソフトでやった事で、映像とセリフのタイミングが合わなくなってしまう事が度々あった。セリフを打ち込む作業をしている時点で映像には手を出す事が出来なくなり、作業自体がてこずる事態に陥ってしまった。

この点は編集ソフトの数を出来る限り絞り、使

映像作品 テーマ：探偵について

用ソフトを使いこなせるようになる事で改善されるであろう。

最後に言い訳にも思える反省点がある。動画序盤で映像が乱れてしまうシーンがあるが、これは動画の膨大なデータ容量にPCが耐え切れなかった事によって生まれた画像の乱れだと思われる。その為、自分では対処できなかった。これを少しでも改善しようと画面のサイズを小さめに調整した所、少々乱れは改善されたが、代わりにテロップが少し切れてしまう事になってしまった。

反省点を残したまま作品を提出する事には少々心残りがあるが、初めて自分の作ってみたいテーマの作品を作り上げる事が出来た事においては達成感を感じている。

米澤穂信著「インシテミル」：文春文庫

東野圭吾著「探偵ガリレオ」：文春文庫

東川督哉著「謎解きはディナーの後に」：
小学館文庫

桜庭一樹著「GOSICK」：角川文庫

松岡圭祐著「万能鑑定士Qの事件簿」：角川文庫

三上延著「ビブリア古書堂の事件手帖」：
メディアワークス文庫

参考資料

探偵：[http://ja.wikipedia.org/
wiki/%E6%8E%A2%E5%81%B5](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8E%A2%E5%81%B5)

シャーロック・ホームズ：
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7
E3%83%A3%E3%83%BC%E3%83%AD%E3
%83%83%E3%82%AF%E3%83%BB%E3%8
3%9B%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%
BA](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%BC%E3%83%AD%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%BB%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%BA)

古畑任三郎：
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4
E7%95%91%E4%BB%BB%E4%B8%89%E9%
83%8E](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E7%95%91%E4%BB%BB%E4%B8%89%E9%83%8E)

そして誰もいなくなった：
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%9D%
E3%81%97%E3%81%A6%E8%AA%B0%E3
%82%82%E3%81%84%E3%81%AA%E3%8
1%8F%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%
9F](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%9D%E3%81%97%E3%81%A6%E8%AA%B0%E3%82%82%E3%81%84%E3%81%AA%E3%81%8F%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%9F)

相棒：
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%B8%
E6%A3%92%E3%81%AE%E7%99%BB%E5
%A0%B4%E4%BA%BA%E7%89%A9](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%B8%E6%A3%92%E3%81%AE%E7%99%BB%E5%A0%B4%E4%BA%BA%E7%89%A9)